

はっぽう

議会だより

全県ベスト4おめでとう！(八森ブルーウェーブ)

「さあ、いくど！」



6月
定例会

- 定例会ダイジェスト…………… 2ページ
- 一般質問 目次…………… 4ページ
- 一般質問…………… 5ページ
- 予算審査付帯意見回答…………… 10ページ
- 峰神太鼓の紹介…………… 12ページ

四方八峰 (町を元気にする団体紹介シリーズ)No.1 峰神太鼓

代表
米森 博孝

Q 1.今では知らない人がいない「峰神太鼓」ですが、近年の活動状況は。

A: 現在メンバーは10名で、町の文化祭や町内のイベントなどに出演しています。

Q 2.活動を始めたきっかけを教えてください。

A: 平成12年に旧峰浜村に太鼓の寄付があり、それを活用した村興し事業として、メンバーの募集がされました。当時は30名ほどが集まっていたと思います。当初からのメンバーは6名います。

Q 3.仲間をどうやって集めましたか。

A: 当初は村が募集しましたが、最近メンバーが友人をスカウトして集めました。

Q 4.長く活動する秘訣はありますか。

A: お互いに仕事とか子育てとか、様々状況が変化していますので、積極的に参加出来ない時期もあつたりします。そんな時は、お互いのペースを認め合うということでしょうか……。

Q 5.今までで最高に思い出に残った演奏はどこで行ったものですか。

A: 始めて2年目くらいだと思いますが……、福島県の飯坂温泉太鼓フェスティバルに参加したことがありました。唯一の県外での演奏でした。

Q 6.活動してきて苦労したことは。活動の障害となっているものは。

A: 練習の拠点(峰栄館)も使わせてもらい、年に数回の出演の機会にも恵まれ、マイペースで続けていますので、特に障害はありませんが……、年齢でしょうか(笑)

Q 7.今後の展望や抱負を教えてください。

A: 今後も活動を継続できるよう、マイペースで続けていきます。

Q 8.最後に町民に向けて一言お願いします。

A: 峰神太鼓の応援、よろしく願いいたします。



編集後記

令和最初の6月議会定例会の最終日、一般質問に5氏が登壇した。傍聴者は少なかつたものの、質問は農業振興策や福祉施策、災害対策など多岐にわたり、3氏が質問時間の55分を使い切るなど、町当局との議論は白熱し緊張感が伝わる議会となった。

ある会合で、ひとりの青年に「議会だより」は見ようと思わないと言われた。

町の課題に向き合っている私たち議員の活動を伝えるために、何が足りないのか。なにが必要なのかを考えさせられた一言であつた。

(記 腰山良悦)

- 議会広報編集委員会
- | | |
|------|----|
| 委員長 | 皆川 |
| 副委員長 | 笠原 |
| 委員 | 山本 |
| 委員 | 山本 |
| 委員 | 良悦 |
| 委員 | 悦人 |
| 委員 | 子範 |
| 委員 | 也 |

6月 定例会 ダイジェスト

今6月定例会は6月12日(水)から14日(金)までの3日間開催され、条例制定・改正や一般会計及び特別会計の補正予算等の議案18件が上程されました。そのほか、陳情2件を審議しました。

一般質問では、5人が登壇し、町政をただしました。



給食センター空調機器新設工事に伴う予算6901万9千円を可決

(一般会計補正予算(第1号)) 補正予算の内容

工事請負費6719万9千円、工事管理業務委託料170万円、新設工事に伴う電気料の増見込み12万円。

(全員賛成で可決)

議会から町へ(質疑)

質問 機器だけで6800万円ほどであるが、これが5年後、6年後(給食センターが新築した際に)取り外して使えるものなのか。この金額の機械が廃棄になるのだったら、すぐ新しい給食センターを建ててもいいのでは。

答弁 機器そのものは十分使える。ただし、機器の配管等については、建物の構造の違いがあるので使えない。

再質問 この6800万円のうち、新しい給食センターを建てたときに、この今整備する機器の金額にしてどれくらいのもが使えるのか試算したのか。

答弁 給食センターの空調設備は市販の家庭用・事務室用とは違って厨房専用であるため高価になっている。さらに外気処理機、熱交換器をつけることでさらに高額になった。

「このくらいの部分が見えるのか」については、

峰浜地区統合子ども園の建築・電気設備・機械整備工事を行う業者が決定

(工事請負契約の締結について) 契約の内容

- 峰浜地区統合子ども園建築工事
契約金額 2億7169万8900円
契約者 高田住宅工業(株)峰浜本店
- 峰浜地区統合子ども園電気設備工事
契約金額 6616万5000円
契約者 保坂電気工事(株)
- 峰浜地区子ども園機械設備工事
契約金額 7241万7400円
契約者 (株)協立

(全員賛成で可決)

議会から町へ(質疑)
質問 (建築工事について)指名業者は何社であったか。

答弁 町内業者ということで3社を指名した。再質問 過去に八森子ども園の時代に施工ミスがあつてトラブルになった。二度とやり直し工事が無いようにしてもらいたい。万が一、このような状況があつた場合、手直しをどこまでの責任でやるのか。

答弁 あくまでも施行責任ということでその業者に必要な手直しをしてもらう形になる。それから、施工の不良等に関しては、瑕疵担

請願・陳情

● 地方財政の充実・強化を求める意見書提出に関する陳情

(提出者 連合秋田能代地域協議会 議長 安田真人)

内閣総理大臣、内閣官房長官、総務大臣、財務大臣、経済産業大臣、内閣府特命担当大臣(地方創生・規正改革担当)、内閣府特命担当大臣(経済財政政策担当)に意見書を提出

● 教職員定数改善と義務教育費国庫負担割合2分の1復元をはかるための、2020年度政府予算に係る意見書採択の陳情について

(提出者 秋田県教職員組合 執行委員長 櫻田憂子・秋田県教職員組合能代山本支部 支部長 越後谷茂)

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、文部科学大臣に意見書を提出

賛否が分かれた議案・陳情の採決結果

○：賛成 ●：反対

賛否が分かれた議案・陳情を掲載しています。その他の議案はすべて全会一致で可決されました。

	水木壽保	山本優人	奈良聡子	腰山良悦	須藤正人	芹田正嗣	見上政子	菊地薫	笠原吉範	芦崎達美	皆川鉄也	門脇直樹	議決結果
地方財政の充実・強化を求める意見書提出に関する陳情	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	加	採択
教職員定数改善と義務教育費国庫負担割合2分の1復元をはかるための、2020年度政府予算に係る意見書採択の陳情について	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	採択



空調機器が未整備の給食センター

新しい給食センターが今くらいのスペースのものが建つた場合は、そのまま使えるが、給食減等の理由により、調理場がコンパクトになった場合は、使用できない機器も出てくる。

再々質問 (新しい給食センターを建設した際)どれくらい残るか試算したか。

答弁 見積もりの部分では機器の部分だけでは5100万円。この後の入札でどのような形になるかわからないがそのくらいである。

ここが聞きたい

ただ 町政を質す!!

5人の議員が一般質問

一般質問では5名の議員が町政について質問しました。

p5 芹田 正嗣 議員
1 農業振興について

p6 見上 政子 議員
1 介護保険の利用について
2 国道沿いの通学路の安全対策を
3 災害時の避難は大丈夫か

p7 山本 優人 議員
1 外郭団体等の運営・経営について
2 灌漑用水の確保について

p8 奈良 聡子 議員
1 洋上風力発電に対する町の姿勢について

p9 水木 壽保 議員
1 圃場整備事業について
2 災害対策について

一般質問とは？

一般質問は、議員個人が町の事務の執行状況や将来に対する考え方などの報告や説明を町長などに求め、町政執行における所見や疑義について質問できるものです。
本町では、効率的な議会運営のため質問する議員があらかじめ議長に質問の趣旨などを知らせる「通告制」とし、議員はその内容に沿って質問します。
質問時間は1人につき質問答弁を含め55分以内で完了することとしています。再質問からは、一問一答方式が採用されており、時間内であれば何度でも再質問ができます。

誰でも傍聴できます。団体の場合は事前にご連絡下さい。



新工場のホダを使った栽培棟



優良な実績を出している新工場のホダ

峰浜培養の事業状況は

町長 ホダ木の低コスト化を図る

芹田 峰浜培養の経営状況とこれからの経営戦略は。

町長 昨年度の事業内容は、

ホダの生産本数が、しいたけを摘み取る人手の確保難に伴う規模縮小などの要因から当初計画を下回り、配荷実績が245万5000本と計画対比91%。新工場は培養施設が既存工場と違うことから培

養に苦勞したこともあり、稼働率は約5割となっている。

今後の事業計画は、高齢化や雇用者の確保などによる規模縮小もあり、約250万個の生産量としている。

また、地元ナラ材を使用したホダの栽培実験を実施しており、従来品と比較しても遜色ない実験結果が出ていることから、事業化を検討しながらホダの生産コストが安い新工場の稼働率向上に努める。

圃場整備事業計画は

町長 事業内容を周知し促進に努めたい

芹田 町の圃場整備率は

46・8%となっており、他地区と比較して低水準となっている。農業振興には、土地の基盤整備・用排水に伴う暗渠・農道の整備等が重要と考えるが、町長の考えは。

町長 圃場整備率は平成30年

度末実績で、能代山本地区の平均51・8%よりも低く、管内でも進んでいないのが現状だ。主な要因は、関係農地の相続未登記や費用負担などから一部農家の同意が得られないことである。

基盤整備の促進には、地元農家全員の盛り上がりや合意形成が重要であり、事業実施を希望する地域には、町や県・農地中間管理機構が向いて説明会や勉強会を行い、農家負担なしで実施出来る事業の周知を図り、基盤整備を促進したい。



芹田 正嗣 議員

外出支援サービスの 拡充を

町長 「高齢者サービス 調整会議」で検討

見上 外出支援サービスを要する高齢者を増やす考えはないか。次に介護4・5の在宅の人も受けられる特別障害者手当の該当漏れはないか。

町長 要支援者の拡大要件について「高齢者サービス調整会議」で検討するとともに、必要に応じて「地域公共交通会議」で協議する。なお、運転手は足りている。特別障害者手当と介護4・5については、それぞれ認定基準が異なる。特別障害者手当の該当漏れはない。



外出支援車

通学路の安全対策を

町長 県に改善を依頼

見上 榑台、蝦夷の児童が通う国道沿いは危険であり、ガードレールなどの安全対策を県に要望する考えは。

町長 昨年、関係機関と通学路合同点検を行い、安全対策の検討、改善を依頼した。榑台交差点から八森小学校までの通学路は今年度から3



避難路にもなっている狭い道路

か年計画で、防護柵の設置工事が実施される。峰浜小学校通学路については、注意看板等に対応する。

見上 河口・堰堤の堆積物の除去や避難路の整備は。また、福祉避難所の設置の考えは。

配慮者」にあたる方の支援体制が整備されている八森保健センター、埴川健康センターや町内の特別養護老人ホーム等を避難所としている。新たな建設は難しい。今後、公共施設の新設・改修の際に活用できるように整備を検討する。



見上 政子 議員

福祉避難所の設置は 町長 新たな建設は難しい

外郭団体等の 代表辞任を

町長 今後の役員会で 検討する

山本 町長は、自らの判断と責任により徹底した効率化、経営改善に取り組んで財政規律の強化に努め、第三セクター

の経営が著しく悪化している場合は、将来的に多額の財政負担が生じないよう行っている事業そのものの意義・必要性・公共性・採算

性について検討を行い、事業継続の是非や事業手法の選択について存廃を含めて判断を行う監督的立場にあることから、外郭団体等の代表の職を兼ねるべきではない。

町長 就任から、1年もやってみないで即駄目だというわけにはいかないし、町として大株主としてどういう形の関わり方がいいのか検討したい。

山本 現在の取締役は忙しい名士で出席できてない。本当に経営者としてハタハタ館を立ち直らせる意欲のある人を取締役にお願いする考えは。

町長 今後の役員会等で検討したい。

町長 外郭団体等の代表の職に關しては、ハタハタ館のように第三セクターだから「町長が代表となる」という考えは持つていない。会社の定款に基づき、取締役会の決議をもって社長が選任されるものと認識しており、経営改革を進めていく体制を強化したところでもあるので、少し時間をもらって経営の動向を見極めたい。

山本 会社の運営を慎重にし、第三セクターであるがゆえに金が回らなくなると、町でまた貸付することに、町からその社長職をやつてもらわないと駄目だ。

町長 社会福祉協議会会長、自治会会長は次期は辞めたい。

恒久的な水資源の 確保を

町長 国県に要望していく

山本 恒久的に水資源の確保ができるダムが必要だ。

町長 多目的ダム等の灌漑施設を国や県に要望。また支援をお願いする。



山本 優人 議員



ハタハタ館の代表も務めているが…



増えていく耕作放棄地

水木 能代山本地区の圃場整備率は全県一低く、その中でも八峰町は46・8パーセントで最下位である。年々高齢化が進み、若い後継者や農

業法人に農地が引き継がれているが、圃場条件が悪く四苦八苦している。現状のままでは、受け手農家や農業法人への農地集積は促進され

このため、県や町では条件を満たしたうえで受益者負担がゼロになる「農地中間管理機構関連農地整備事業」を準備し、希望する地域があればいつでも出向いて説明会や勉強会を実施したい。



水木 壽保 議員

積極的に圃場整備を

町長 圃場整備は重要課題

③デメリットも含めた洋上風力についての正しい情報を行政側から住民に提供すべきではないか。

果関係は確認できなかった。町内にも陸上風車が9基建設されているが、騒音や体調の変化に関する苦情はない。

迂回路の進捗状況は

町長 道路と併せ 早期改修を検討

水木 数年前の豪雨で塙、大信田集落が一時孤立した。その際、災害時における迂回路(バイパス)の計画案について質問したが、その後の進捗状況は。

町長 この問題は、有事の際に大信田集落を孤立させない対策としての道路改良事業等を検討し、関係する地権者と協議を重ねてきた結果、亡くなった方の未相続や登記上の関

係から現在のところ暗礁に乗り上げた状況である。課題が多く時間を要しているが、現時点では新しい道路の可能性を探りつつ、塙川の早期改修を検討している状況である。

洋上風力

漁業者と直接対話を

町長 漁協が意見集約し 協議に臨む

奈良 ①漁業者の7割は洋上

①町ではその事実を把握していない。再エネ

風力発電に反対だが、声を挙げにくい状況だという。漁業者と直接対話の機会をもつべきではないか。

海域利用法が規定する協議会が設置されれば、漁業者の意見を集約した漁協代表者が意見を述べることになるので、漁業者との対話の機会を設ける考えはない。

②由利本荘市と、にかほ市の陸上風車付近の住民10人が体調不良を訴えている。低周波との因果関係がないとは言えないと思う。現行の事業計画ではせいぜい沖合2km程度への設置で無謀な計画だ。これで住民の健康を守るのか。

②環境省が平成28年に公表した報告書では、風力発電の超低周波音及び低周波音と健康影響との明らかな関連を示す知見は確認できなかったとしていた。昨年11月の愛知県田原市でのヒアリングでも因果関係は確認できなかった。町内にも陸上風車が9基建設されているが、騒音や体調の変化に関する苦情はない。



洋上風力発電 (イメージ)

繰り返しになるが、洋上風力は陸上風力よりかなり遠くに設置されるので、人体への影響の懸念はより少なくなるかと考えている。

が伝えられると考える。法定協議会が設置された際は、協議の経過を広報等で周知し、必要に応じて住民から聴取しとりまとめた意見を協議に反映させたい。



奈良 聡子 議員

適切な予算執行に向けて

(予算審査付帯意見回答)

3月定例会で、適切な予算の執行にあたり、予算特別委員会から町当局に提出した付帯意見に対しての回答です。(※回答は令和元年5月29日現在のもの)

意見1 高齢者コミュニティセンター(湯つこうランド)について

高齢者コミュニティセンターについて、強い利用者があり、老人福祉増進の一翼を担っている。源泉の枯渇や施設の大規模改修の必要が生じ、廃止とする場合においては、利用者の理解を得る必要があることから、費用試算を示せるようにすること。

回答

平成30年度の付帯意見書にも回答したとおり、湯つこうランドについては、旧源泉の枯渇や大規模改修が必要になるまでは継続していく。今後の改修計画については、今年度に濾過材の交換(264万円)を行うほか、次年度以降に濾過装置

交換修繕(167万円)、機械設備修繕(140万円)、揚湯管工事(ポンプ150m地点から地上までの汲み上げ)(200万円)が見込まれ、現段階における次年度以降の修繕費用の合計は507万円を予定している。

旧源泉が枯渇する時期は不明だが、新源泉ができたことにより、旧源泉からハタハタ館への給湯がなくなったので、湯量については旧源泉が枯渇する時期は遅くなったと考えている。

また新源泉については、建設時において、新源泉を送湯するポンプ能力、送湯パイプの管径、源泉タンクの容量、濾過ポンプ能力、製品タンクの容量などが、ハタハタ館のみに送湯するという前提で計画されているため、旧源泉が枯渇した場合に、新源泉の送湯設備を利用して新源泉から湯つこうランドへ

送湯することは不可能な状況である。したがって、旧源泉が枯渇した場合、新源泉から湯つこうランドへ送湯するには、新源泉の送湯設備と同じくらいの整備費が必要になるものと見込まれる。ちなみに、新源泉の送湯設備については、新源泉管理棟建築工事、その設計委託、機械設備工事として、合計で約6100万円を支出している。

老朽化により建て替える場合については、どのような規模にするかにもよるが、さらに建設工費が必要になると見込んでいる。

意見2

子ども園電子黒板の有効活用について

ICT教育充実のため、子ども園に導入した電子黒板が現状では十分に活用さ

れていると認めがたい。有効活用を図ること。

回答

子ども園の電子黒板については、平成28年度から、幼児教育の課題解決及び幼児教育から小学校教育へのスムーズな接続を実現することに、より、八峰町全体のICT活用ノウハウを蓄積し、小中学校教育をさらに発展させることを目的に、町内3子ども園に導入したものである。各子ども園ではこれまで、行事を動画撮影し、反復練習等に活用していたが、学習面での利用は十分でない状況であったので、今後は、各子ども園の年間利用計画を見直し、無料学習ソフト等を活用しながら、園児が電子黒板に馴染めるようない取り組みを進めていく。

意見3

ブルーベリー栽培事業について

職員が栽培指導を受けてから、ブルーベリー栽培を町内に広めようとするのではなく、最初に栽培希望の需要調査を行い、希望者が直接栽培指導を受けられるような事業を検討すること。

回答

ブルーベリーは寒冷地に適する品種がたくさんあり、町内でも栽培に取り組んでいる方がいるが、栽培者の取り組み実績が新しいことから、事業として取り組んでいくためには、県内や町内の先進者等から指導を受けながら栽培技術を向上させることが必要と考える。

農業を魅力ある産業にするためには、

しを図ること。

回答

給食センターでは、子どもたちが摂取しなければならぬ栄養価を考えた給食を提供しているが、現在の給食費は平成14年に設定された安い料金のみであり、必要な給食材料費を賄うことができないことから、不足分を町が負担していた。こうした状況の中で、平成27年度から、町が給食費の1/2を補助する支援策を実施しているが、平成14年に設定された安い料金の1/2補助であったことから、実際は1/2以上の負担を町が行っている。

今後は、保護者に給食費の現況を説明し、また関係者と協議しながら、適正な料金及び適正な制度に見直ししたいと考えている。

野菜、大豆、ソバなどの付加価値が高い作物との複合経営への取り組みが必要であり、ブルーベリーも複合経営の品目の一つとして定着させていくと考えているが、そのためには、八峰町の気候にあった品種の絞り込みを始め、それぞれの品種にあった肥培管理方法など、いきなり参入する農家のリスク部分を軽減するため、まずは町有農園で実証栽培を行い、一定の栽培技術のノウハウを積み重ねてから、農家へ技術移転する方法が有効であると考えたところである。

またブルーベリーについては、普通の野菜と違って酸性の土壌でなければ育たないという特性があり、そのための肥料代が高いという課題がある。現在、市販されている高い肥料ではなく、菌床シイタケの使い終わったホダ木とやま砂や普通の土を混ぜたものを

意見4

生薬栽培の採算性の検証について

生産量不足等から

生産費が売渡価格を上回り、その差額を町が負担していくのでは生薬栽培の普及の見通しが立たない。生薬栽培の採算性を検証すること。

回答

生薬については、米以外の作物で農家の所得向上につながる野菜や大豆、ソバ、菌床シイタケなど付加価値の高い作物との複合経営の新たな作物として、平成25年度から栽培に取り組んでいる。

のど飴等の原料となる生薬の国内自給率は約10%であり、それ以外はほとんど中国に依存し、中でもキキョウはすべての原料が中国となっている。中国からの輸入価格は生薬品目全般にわたって高くなってきているものの、国内産の1/2程度の価格である。町としては、現在の買い取り単価では生産費がまかなえない

意見5 給食費の料金等の見直しについて

諸物価の高騰等により、賄材料費は増加傾向にあり、保護者半額負担の原則が崩れている。安心安全な給食を維持するためにも給食費の見直しを図ること。